

7.11「男子部」 7.19「女子部」 結成記念日

1 枚目／男女青年部の結成／男子部の結成（5枚目の絵の裏に貼る）

1951（昭和26）年5月3日に「75万世帯の弘教」という誓願を掲げて創価学会第二代会長に就任した戸田先生は、広宣流布の遠大な未来を展望し、「広布の全責任を担う組織」として、同年7月に青年部を結成しました。その陰には、師匠の事業の最大の苦境をたった一人でお守りした、不二の弟子である池田先生の姿がありました。7月11日に行われた男子部結成式は、まさに師弟不二で苦難を勝ち越えて迎えた式典だったのです。結成式の際、戸田先生は語りました。「きょう、ここに集まれた諸君のなかから、必ずや、次の創価学会会長が現れるであろう」と。池田先生は述懐しています。「その師の声を、私は会場の一角で、若き生命に刻みつけていた。それは、大難を勝ち越えた師と弟子との二人の儀式であつたからだ」と。

2 枚目／女子部の結成（1枚目の絵の裏に貼る）

男子部結成に次いで、7月19日には女子部の結成式が行われました。戸田先生は旧学会本部に集まった74人のメンバーを前に、「学会の女子部員は、一人のこらず幸福になるんですよ」と慈愛を込めて呼び掛けました。幸福境涯を開くために「純粋な、強い信心に生き抜く」ことを訴えて、女子部の前途を祝福したのです。池田先生は、女子部への想いを後にこう綴っています。「わが女子部の皆さんは、自分自身が、一人ももれなく、「幸福の太陽」である。ゆえに、自らの境遇を嘆く必要もなければ、人をうらやむ必要もないのだ。題目を朗々と唱えながら、明るく朗らかに、自分らしい生命の光を、勇氣凛々と、そして、自信満々に放っていけばよい」

3 枚目／人材グループ（2枚目の絵の裏に貼る）

男女青年部の結成を受け、翌年の1952年には「華のように美しく、太陽のように誇り高くあれ！」との思いをこめ、女子部の「華陽会」、男子部の「水滸会」という人材グループが結成されました。その伝統は現在、池田先生が結成した「池田華陽会」「白蓮グループ」「創価班」「牙城会」などに厳然と脈打っています。師匠からの渾身の激励を胸に、職場や地域、それぞれの使命の場で奮闘する青年部員。「信心即生活」「仏法即社会」の実証を厳然と示す感動の体験、歓喜のドラマは尽きません。

4 枚目／^{せいねんぶ}青年部を^{ちよくせつげきれい}直接激励（3 枚目の絵の裏に貼る）

^{いけだせんせい}池田先生は^お折りに^{ふれ}触れて、^{ほんぶかんぶかい}本部幹部会の^{せきじょう}席上などで、^{かいがい}海外の^{せいねんぶ}青年部メンバー、^{こてきたい}鼓笛隊や^{おんがくたい}音楽隊のメンバーに^{こえ}直接声をかけて^{せき}激励してきました。また、^{ひび}日々の^{せいきしんぶんしめん}聖教新聞紙面などでの^{しどう}ご指導を通して、^{にちやふんとう}日夜奮闘する青年部に^{はげ}励ましをおくり^{つづ}続けています。^{ひとり}一人でも^{おほ}多くのメンバーを、^{おも}直接激励する^{れんさい}想いで連載された「^{ごしょ}御書と^{せいねん}青年」^{なか}の中では、^{つぎ}次のように^{しどう}指導をしました。

「どんな^{もんだい}問題であれ、「これですべてがうまくいく」という、^{まほう}魔法のような^{かいけつさく}解決策などない。
^{いの}祈って^{くろうし}苦労し^ぬ抜いて、^{ひとつ}一つ一つ^の乗り越えていく以外にない。^{しごと}仕事も^{おな}同じです。
そして^{さいご}最後は^{いっさい}一切が^{だいぜん}大善に^か変わり、^{かなら}必ず^{だかい}打開できる。これが「^{ぜったいしょうり}絶対勝利の^{しんじん}信心」です」

5 枚目／^{そう}「^{かせいねんがっかい}創価青年学会」の^{ほこ}誇りも^{たか}高く^{ししょう}師匠に^{こた}お応えする^{たたか}戦いを（4 枚目の絵の裏に貼る）

^{いけだせんせい}池田先生は、^{せいねんぶ}青年部に対する^{おも}思いを^{かた}こう語っています。

「^{こうせん}広宣^ふ流布の『^{みち}道』はできた。『^{しろ}城』もできた。あとは、『^{ひと}人』である。
^{みらい}未来は、^{わか}若き^{きみ}君たちにかかっている。^{いま}今、^{ほんき}本気でやらなければ、^{こうかい}後悔の^{じんせい}人生となる。^{けつきよく}結局は、^{じぶん}自分が^{そん}損を
するだけだ。^{こうふ}広布の^{ろうく}労苦は、すべて、^{じぶんじしん}自分自身のためになる。
^{みょうほう}妙法に^い生き^ぬ抜く人は、^{えいせん}永遠の『^{ふくうん}福運』を^つ積み、^{ちから}永遠の『^{たから}宝』と『^{ちから}力』を^も持つことができるのである。ゆえ
に、^はつらくとも、^く歯を^く食いしばって^た耐えるのだ。^{だん}断じて^{たたか}戦うことだ」
^{だんじよせいねんぶ}私たち男女青年部は、「創価青年学会」の誇りも高く、^{きたい}師匠のご期待にお応えする戦いをして^{まい}参りましょう。

^{けつい}決意など